

自由主義史観研究会の新しいプロジェクト・チーム
「歴史写真・映像研究会」(仮称) 設立の提案

1997年12月13日 藤岡信勝

1) 設立の趣旨

歴史を歪める反日宣伝のために捏造された自虐的な写真や映像は、教室で使われる歴史教科書や教材にとどまらず、長崎の原爆資料館や「ピースおおさか」、東京の「平和祈念館」に見られるように各種の社会教育施設でも大手をふるってまかり通っています。歴史の現場に立ち会っている年配者の方々がお元気なうちに、これらのニセ写真・映像のウソを組織的に明らかにしておく必要があります。自由主義史観研究会の活動としてこのプロジェクトを立ち上げ、取り組むことを提案します。

2) 活動の計画

月例のプロジェクト研究会を開催し、会員や各種分野の専門家・当事者をお招きして、スライドなどに映した写真やビデオで再生した映像資料を見ながら、3時間程度の検討会を行う。この研究会は大きな会場で公開で行う方法も考えられる。

調査した成果は、一枚の写真ごとに

① どういう資料的意味を与えられて今まで使われてきたか

② なぜ、それが虚偽の写真といえるのか

③ 掲載・展示されている教科書・歴史資料集・博物館などの網羅的なリスト

を添えて、文章化する。これを定期的に新聞または雑誌に発表する。

50点程度をメドに、一冊の写真集(仮タイトル『歴史を偽造した反日写真集』)として出版する。

この写真集をもとに、教科書・資料集のみならず、各地の「平和」資料館の展示の総点検運動を起こす。展示の撤去を求めるとともに、ニセ写真の展示を許さない立法措置を国会議員に働きかける。

3) 活動のための組織体制

自由主義史観研究会が責任を持ち、事務局メンバーをつのり、そのチームで運営する。